

非行少年に対する予防・社会復帰などに向けての検討

羽田 沙綾

- 1 はじめに
- 2 非行少年に対する予防について
- 3 非行少年の再犯について
- 4 非行少年に対する社会復帰について
- 5 まとめ

1 はじめに

私が、今回選んだテーマは非行少年に対する予防・社会復帰などに向けて各機関がどのような対策を進めるべきかについてである。移り変わる現代に対応して、子供たちの生活にも多くの変化がある。そして、現代における少年非行には、多くの種類が存在し、これから、多くの幼い子供たちが自立していくうえで正しい道に進み、また、間違っただとしても正しい道に戻してあげられるようにするには、各機関の対策が必要不可欠だと考えた。そこで、非行少年に対する予防、早期発見、社会復帰に向けて具体的にどのような対策を進めるべきかについて考える。非行少年に対する問題意識は、社会全体にとっても重要なテーマであり、さまざまな視点から考察する必要がある。

2 非行少年について

まず、非行少年とは、法律や社会の規範に反する行動をとる若者を指し、少年自身の規範意識の低下や、コミュニケーション能力の不足、家庭や地域社会の教育機能の低下や、少年が居場所を見つけられず、孤立し疎外感を抱いている状況などが背景として挙げられる。また、家庭環境、学校生活、友人関係、社会的な要因などが複雑に絡み合っていると見える。そこで、家庭環境の影響が大きいことが指摘されており、家庭内でコミュニケーションの欠如、経済的な困難などが、子どもたちの心理的な安定を損ない、非行に走る要因となることがある。特に、親の教育方針や家庭内のトラブルが子どもに与える影響は計り知れない。親が子どもに対して無関心であったり、過度に厳しかったりする場合、子どもは自分の居場所を求めて非行に走ることがある。また、学校生活における問題も重要である。いじめや学業のストレス、友人関係のトラブルなどが、非行の引き金となることがある。学校は子どもたちが社会性を学ぶ場であるため、ここでの経験がその後の人生に大きな影響を与えることは明らかであり教育現場での支援体制やカウンセリングの充実が求められる。また、社会全体の価値観や文化も非行少年の行動に影響を与えると考えられる。メディアの影響や、暴力的な

コンテンツは、子供たちにとって非行を助長する要因となることがある。社会がどのような価値観を持ち、どのように子供達を育てるかが、非行の予防において重要なポイントだと考える。ここからは、非行少年に対する予防についてである。訪問や、連絡活動による少年および、家庭への継続的な指導、そして、就学、就労支援、地域との繋がりを持つことなどが挙げられる。まず、家庭環境がとても重要性である。家庭は子どもにとって最初の社会であり、家庭環境が非行行動に大きな影響を与える。親の教育方針や家庭内のコミュニケーションが良好であることが、子どもの情緒的安定や社会性の発達に影響する。親が子どもに対して関心を持ち、適切なルールを設けることで、子どもは安心感を得て健康に成長できる。逆に、家庭内での虐待や無関心、経済的困難があると、子どもは非行に走るリスクが高まる。そのため、各家庭がどのように生活できているのかをある程度、社会が認識する必要があると考えた。過去に警察で取り扱った少年やその家族からの助けを待つのではなく、警察から積極的に手を差し伸べて支援する活動から、関係機関やボランティアなどと連携していくことで予防に繋がると考える。次に、学校教育の役割としては、学校は子どもが社会性を学ぶ重要な場である。教育現場では、道徳教育や社会性を育むプログラムを充実させることが必要だと考えた。また、教師が生徒との信頼関係を築くことで、問題行動を早期に発見し、適切な支援を行うことが可能になる。いじめや不登校といった問題も、学校での適切な対応によって予防できる場合がある。地域社会の支援としても非行少年の予防において重要だと考えた。地域のボランティア活動やスポーツクラブ、文化活動などに参加することで、子どもたちにとって安全な人間関係を築くことができる。また、地域の大人たちが子どもたちに目を向け、関心を持つことで、子どもたちの居場所を提供し、非行行動を未然に防ぐことができると考えた。

3 非行少年の再犯について

次に、非行少年の再犯についてである。犯罪白書によると最近の20年間で刑法犯により検挙された少年のうち、再非行少年の人員及び再非行少年率の推移は、平成9年から増加傾向にあったが、16年以降は毎年減少している。再非行少年率は、10年から28年まで上昇し続けた後、29年以降は3年連続で低下したが、令和2年は34.7%であり、増加した。そこで、少年事件の件数そのものは減少しているが、再犯率にはあまり変化がないことがわかる。非行少年の再犯について考えると、社会的な背景や心理的要因、教育的なアプローチなど、さまざまな視点からの分析が必要である。非行少年の再犯は、社会において深刻な問題として認識されている。この問題は、個人の人生に大きな影響を与えるだけでなく、家庭や地域社会、さらには国全体にまで及ぶ影響を持っている。まず、非行少年が再犯を繰り返す背景には、さまざまな要因が存在する。先ほどと同様に、家庭環境の不安定さや、経済的な困難、教育の欠如などが挙げられる。特に、家庭内での関心やサポートが不足している場合、少年は外部の刺激や仲間からの影響を受けやすくなり、再び、非行に走るリスクが高ま

る。また、学校でのいじめや学業の不振も、再犯を助長する要因となる。次に、再犯を防ぐための支援体制が不十分であることも問題だと考えた。非行少年に対する更生プログラムやカウンセリングが存在するものの、実際にはその利用が限られている場合が多いと感じた。特に、地域によっては専門的な支援が受けられないこともあり、再犯防止に向けた取り組みが不十分だと言える。さらに、社会全体の理解不足も影響している。非行少年に対する偏見や差別が根強く、非行少年が社会に復帰する際の障壁となることがある。また、再犯の問題は、社会的なコストも伴う。非行少年が再犯を繰り返すことで、警察や司法、福祉サービスなどにかかる負担が増大してしまう。これにより、社会全体の治安が悪化し、地域住民の安全感が損なわれることにもつながる。さらに、再犯を繰り返す少年が増えることで、社会的な信頼関係が崩れ、コミュニティとしての結束力が弱まることも懸念される。そこで、少年院を出た後に、社会がどう受け止めるのかが課題となると考えた。

出典：法務省ウェブサイト (https://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00118.html)
(2025年1月17日閲覧)参照。

4 非行少年の社会復帰について

次に、非行少年に対する社会復帰についてである。特性に応じた指導や支援、就労、修学支援の充実や、医療、福祉機関、保護観察所との連携、また、学習の機会の提供と援助などが挙げられる。まず、心理的支援として、非行少年の多くは、心理的な問題を抱えている。家庭環境や学校での人間関係、自己肯定感の低さなどが影響していることが多いため、心理カウンセリングなどの支援を通じて、彼らの感情や行動の背景を自分自身で理解し、適切な対処法を学ぶことが重要だと考えた。専門家によるサポートをすることで、非行少年が自分自身を見つめ直し、前向きな変化を促す助けとなると考える。教育と職業訓練教育は、非行少年が社会に適応するための基盤となるため、学校教育の再入学や、特別支援教育プログラムを通じて、学び直しの機会を提供することが重要だと考えた。また、職業訓練や技能習得プログラムも必要である。これを行うことにより、少年自身が、社会での役割を見出し、自立した生活を送るためのスキルを身につけることができる。また、勤め先の会社の人との交流や実際にそこで少年自身が働けるのかどうかの試用期間を設定することで、より、安定した社会復帰につながると考えた。社会的支援としては、家族との関係構築が必要だと考える。家族とのコミュニケーションを改善し、支え合う関係を築くことが大切である。第三者の手助けが必要な場合は、各機関の見守りの上で少しでも落ち着いた関係構築を進めるべきだと考えた。また、地域社会とのつながりとしては、地域のボランティア活動やスポーツチームなど、社会とのつながりを持つ機会を提供することで、社会復帰した後の生活に良い影響がでると思う。また、ポジティブな印象を与えるために、メンター制度も重要であると考えた。社会で成功している大人との関係を築くことで、ポジティブな影響を受けることができ

ると考える。そして、継続的なフォローが必要です。支援プログラムの継続をして、社会復帰後も継続的に支援を行い、問題が再発しないようにすることが社会復帰において、重要だと考えた。

5 さいごに

結論として、非行少年に対する予防、社会復帰などに向けて各機関がどのような対策を進めるべきかについて、少年非行に対しての理解を深めること、各機関が非行少年に対して寄り添った対策を進めること、様々な対策から孤独感を減らしていく手伝いをする必要があると、そのように進めていくべきだと考えた。非行の背景には、家庭環境や友人関係、学校でのストレスなど、さまざまな要因が影響しているため、これらの要因を把握することで、適切な支援を提供することが可能になると思う。